

第 22 回札幌市自立支援協議会概要

1 日時

平成 26 年 9 月 30 日（火）18 時 2 分～20 時 14 分

2 場所

札幌市役所本庁舎 8 階 1 号会議室

3 出席者

- ・ 今田 雅子（障がい者によるまちづくりサポーター 代表）
- ・ 岡本 直樹（全国重度障害者相談支援協会、白石区地域部会）
- ・ 北川 聡子（（福）麦の子会 総合施設長、子ども部会）
- ・ 栗虫 宏明（（有）拓真ワークス 取締役事業部長、清田区地域部会）
- ・ 黒田 澄雄（（特非）ゆいまーる 理事長、西区地域部会）
- ・ 重泉 敏聖（就業・生活応援プラザ とねっと センター長、就労支援推進部会）
- ・ 杉田 誠（相談室こころ ていね 管理者、相談支援部会）
- ・ 妻倉 ゆかり（あかり家 管理者、中央区地域部会）
- ・ 中村 直人（障害者支援施設第 2 よろこびの家 管理者、豊平区地域部会）
- ・ 根本 淑恵（ほっと相談センター 相談支援業務責任者、南区地域部会）
- ・ 橋本 泰宏（（福）愛敬園 北愛館 主任、手稲区地域部会）
- ・ 福吉 綾子（札幌市障がい者あんしん相談 専任相談員）
- ・ 松川 敏道（札幌学院大学人文学部 准教授）
- ・ 森 祥子（五稜会病院 医療相談室主任）
- ・ 和田 文明（サポートセンターれら 所長、北区地域部会）
- ・ 山本 彩（札幌市自閉症・発達障害支援センター 所長）
- ・ 加藤 法子（（福）楡の会きらめきの里施設長、石崎委員代理）
- ・ 澗口 幸子（（特非）自立支援センター歩歩路理事長、小谷委員代理）

4 欠席委員

- ・ 石崎 剛（厚別区第 2 地域包括支援センター長、厚別区地域部会）
- ・ 小谷 晴子（札幌アシストセンターマザー理事長、東区地域部会）

5 議事概要

別紙のとおり

<議事概要>

1 協議事項

(1) さっぽろ障がい者プランの一部改定について

障がい福祉課洞野事業計画担当係長から配布資料に基づき説明。また、意見書の提出のあった部会及び委員から、意見書について補足説明がある（北川委員、杉田委員、山本委員）。

○ 札幌市（洞野係長）

意見書の一つ一つは、持ち帰って検討させていただきたい。

子ども部会からの意見は、教育関係が一番多く、教育との連携に関わる事項もあるので、そことも協議をさせていただきたい。

相談支援部会からの意見は、自立支援協議会の部分は、表題の記載を変えたいと考えているが、本文については、障害者総合支援法や自立支援協議会の要綱との整合性も考えていきたい。

発達障がいに関する意見は、すべての障がいにまたがる部分は特出ししない形で記述しており、書き振りについて検討させてほしい。

● 松川会長

議論した結果がどうだったかわかるように、検討の結果を開示していただきたい。

● 和田委員

北区地域部会でも議論してきた。バリアフリーの部分の記述について、地下鉄の記載のみだが、市電についても書く必要があるのではないか。

災害対策について、避難場所に指定されている公園があるが、その公園の入口の棒が抜けないので、車いすを使用する障がい者が入ることができない。冬季の対策についての記載があってもいいのではないか。避難行動要支援者名簿の作成について、高齢者の名簿はあるが、障がい者の名簿については、個人情報の関係で民生委員に入っていないという話があり、せめて希望している障がい者については、民生委員、町内会・自治会、地域の方に情報が行くようにしてほしい。避難行動要支援者に係る情報を表示した地図についても、高齢者はあるが障がい者はないと聞いている。

選挙での配慮について、冬季の選挙での投票所に行くまでの配慮についても記載があったらいいのではないか。例えば、投票所を駅やショッピングセンター等の行きやすい場所に設置するとか。

○ 札幌市（洞野係長）

避難行動要支援者名簿は、災害対策基本法の規定により、来年度作成することになっており、平常時は市が保管し、災害時に提供することができる。

● 和田委員

非常時に対応できるようにするためには、平常時からの対応が必要であり、柔軟な対応を検討していただきたい。

● 松川会長

61 ページに記載があるが、ここを補足するようなイメージか。

● 和田委員

記載はあるが、もう少し書いていただいたほうがよい。

● 澗口理事長（小谷委員代理）

先日避難勧告が発令された際に、避難所が開設となり、利用者は少なかったと聞いているが、計画を立てるにあたって、そういう名簿が役に立ったのか、実際に避難所が利用可能になるまでのタイムラグがあったのか、その辺を精査するともう少し計画に反映できるのではないか。具体的なことがあったので、そこをきちんと精査して課題を抽出して、計画に反映するようにしてほしい。実際に避難所が使えるようになっていたのかの精査をしてほしい。

○ 札幌市（洞野係長）

今回の件で体制を見直すということになっている。

● 松川会長

関係部局に伝えていただきたい。また、先ほどの北区の公園に柵があってという例だが、福祉のまちづくりのバリアフリーの会議とも連携して対応いただきたい。

● 黒田委員

災害時に関連して、自身の町内会では、顔の見える関係をとということで、転出入の方に歓送迎会を行っている。民生委員だけでは回りきれないので、大変である。町内会では2人1組で、4～5軒の障がい者も対象として、夜電気がついて

いない等を見ており、普段から何か起きた時はすぐに駆けつけるように体制を組んでいる。名簿は得られない中、高齢者のところに誰が行くかを考えている。

先日も大雨の際に、訓練の一環として、老老介護の家等にすぐ動ける人が駆けつけた。道路が寸断されたときは、動ける人が動けば名簿がなくてもできる。冬季も含めて、普段から顔の見える関係になっているとよいと思う。

単身者のマンションについては、管理会社と連携して、管理人から連絡をもらって転入者の情報をもらうようにして、町内会に入ってもらって、歓迎会を行うといったお付き合いをするようにしている。燃えるゴミといったゴミ出しなども声掛けしており、考えればそんなに難しい内容ではない。日ごろから顔の見えるお付き合いが文言として入っていればよいと思う。

● 松川会長

地域づくりはまさに協議会が取り組むべき課題だと思うし、各地域の中で議論していただければと思う。

2 報告事項

各部会長及び部会長の代理出席者から、配布資料に基づき報告がある。

● 澗口理事長（小谷委員代理）

就労部会が就労継続支援 A 型の事業所へ調査を行うという取組は良いと思う。ライフステージということであると、65 歳を過ぎた方で、福祉系の就労をしてきた方は、今までと違うデイサービスに行くことになる。高齢者のデイに行くのがいいのか、福祉的就労を続けるのがいいのか、自立支援協議会でも議論してほしい。

教育との連携ということでは、共通の言語を持つべきである。「特別な支援を必要とする子どもたち」と国はいうが、それは合理的な配慮のことではないのか。

● 重泉委員

その視点は抜けていた。事業所がどこまで考えるのか、ボランティアで支援しているといった現状もある。

● 澗口理事長（小谷委員代理）

訪問系でも課題としている。

● 北川委員

若者時代と違って、落ち着いた安定したところを求める。うつになって、元の事

業所に戻ってきているという例を聞いた。

● 松川会長

就労継続支援 A 型事業所を調査する意図は何か。

● 重泉委員

昨年度就労移行支援事業所の調査を行ったので、今回は就労継続支援 A 型事業所への調査を行っている。研究的に行いたいと考えている。数が増えてきているので、何をやっているか分からないとらないと考えている。

● 妻倉委員

まちの課題整理プロジェクトの住まいに関するプロジェクトの進捗を報告したい。今年 1 月の地域部会の定例会で不動産会社に来てもらって、要望も聞いた。今月 17 日には、住宅課に来てもらって、市営住宅のことを説明してもらって、孤立死や孤独死に対する取組を聞いた。全区に呼びかけて、課題に取り組みたい。

● 和田委員

東区部会の報告にあった、ヘルパーの人材確保と育成のために作成した DVD はどうするのか。

● 澗口理事長（小谷委員代理）

50 枚作成した。就職活動を行っている学生やヘルパーを養成するカルチャースクール等に配布したいと考えている。DVD については、複製可能なものになるようお願いした。無料で配布したい。

● 松川会長

自立支援協議会が附属機関となることに関して、必要な予算は確保されるのか。

○ 札幌市（小野寺職員）

確保されており、委員に対する報酬を支払うことになっている。

● 松川会長

交通費は自己負担となっており、また、まちの課題整理プロジェクトも回数が多くなっており、そういった対応も何か考える必要がある。

障がい者プランの検討結果はきちんと示してほしい。それを確認することが大事である。